

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000679		
法人名	(有)すいせん		
事業所名	グループホームすいせん高鍋		
所在地	宮崎県児湯郡高鍋町大字上江6649-145		
自己評価作成日	平成30年1月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	平成30年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高鍋町と西都市の境に位置し、自然あふれた場所に位置します。正門を入ると、広々とした庭の中に、畑・花壇もあり季節の野菜や花を咲かせます。共有スペースのリビング等、日当たりがよくリビングより直接出られるウッドデッキも設置しております。季節によってはデッキでの食事やお茶会が楽しめます。また、玄関の鍵も開放しており、その時の気分に合わせて庭への散歩や近所へ自由に出かけることもできます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは入居者は日常的に散歩や買い物に出かけ、近隣の住民や商店の店主、コンビニの店員などと関わる機会がある。近所の犬が飼い主の指示の下ホームを訪れることもあるが、よく入居者に慣れており、犬とのふれあいは生活の一部となっている。地域住民から行事や飾り付け用の道具や資材の提供があったり、保育園の園児の年2回の訪問があったりと、地域との関係性が良いものに保たれている。広いウッドデッキの横には桜の木があり、花見を楽しむこともできる。気候が良い時期にはウッドデッキで昼食や茶話会を開く機会もあり、自然や太陽の光を感じることができる。管理者と職員は、職場内の人間関係に配慮し、穏やかで明るい雰囲気を作るように努めている。雰囲気や家族にも伝わるように写真の掲示や園だよりの定期的な発行を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、玄関・事務所に掲示し日々の介護の中で実践するよう、心がけています。	理念は目に付く箇所に掲示してある。また月に一回の定例会の中で、理念を実際のケアの場面に当てはめ、振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様と一緒に近所へ買い物に行ったり、地区の行事に参加(夏祭りや地区の運動会等)し、また施設納涼祭等では地区の方の参加を呼びかけ、近隣の方々との交流を図っています。	地域の商店やコンビニエンスストアとは顔馴染みの関係になっており、予めスイカを冷やしておいてくれるなどの融通が利くつきあいとなっている。保育園の園児の訪問や、住民の好意で、畑の大根を引きに行くなどよい関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所行事を活用し、地域の方々に参加して頂くことで、実際にご利用者様等と交流ができる環境を作ることで理解して頂けるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入退所状況や活動内容等報告し、意見交換等行い、今後の活動内容や支援内容の改善検討を行っております。	地域の年間行事計画の提供を受けたり、ホームへの資材の提供について提案を受けたりするなど、地域との関係づくりに活かされている。また、家族や行政担当者との意見交換の場として活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからないこと・疑問点はすぐに相談等行い、入退所についてもその都度報告しています。	手続き上の資料や、報告事項について不明な点があれば、電話で相談することもある。運営推進会議に行政担当者の出席がある為、積極的に情報発信を行い連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在も玄関の施錠開放は行っており、その他身体拘束に繋がりそうな状況等職員同士で意見交換等行い、身体拘束しないケアを実践しており、必要時はご家族との話し合いの場を持つようしている。	月1回の定例会で、全入居者の現在の状況について協議し、ケアの振り返りと支援の方向性を検討することで、適切なケアの実践となるように努めている。協議することで、夜間の動きが激しい方への対応など、拘束せずにごう支援するか意思統一を図ってきた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見過ごさないよう、日常的な会話の中で職員同士細かく意見交換を行い、注意等し合う体制づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、この制度を活用できる状況になく、完全な勉強不足であります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は予め時間を十分に取っていただくようにしており、細かく説明し、その都度不安な点・疑問点を確認しながら、納得したうえで署名・捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱・意見書を設置した、面会時のご意見・ご要望を確認しながら職員間で共有し、以降のケアに反映できるよう努めています。	話しやすい雰囲気作りに努め、感じたことや考えを聴く機会を設けている。家族の面会の際に、はっきり意見を言われる方が多い。面会の少ない家族へは、入居者ごとの近況を電話で伝える中で、思いや意見を聴くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会等にて職員間での意見交換等を行い、また個別でも意見を聞くことができる雰囲気づくりに努めています。	年に一度、法人の経営者が職員と面談を行い、直接意見を聴くようにしている。日常的な会話の中で管理者も意見を聴くように努めており、必要な物品や買い替えが必要な機材などについて、すぐに対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が笑顔で豊かに仕事ができるよう、就業条件や労働条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会やその他関係機関の開催する研修要綱を職員共有スペースにファイルを設置し、個々の希望等確認しながら多くの研修に参加できるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西都児湯グループホーム連絡協議会の研修や行事に参加することで、同業者等との交流の機会を設け、また意見交換等できる環境づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階でご本人様とのコミュニケーションの時間を多くとり、お互いを知ってもらうことから始め、「本心」をお話して頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯や思いを時間をかけ傾聴し、「困っていること」「施設に対する要望等」を確認しながら関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入時の「今どうしてほしいか」を細かく確認しながら、ご本人・ご家族が納得される支援内容を提供できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設ではなく「自宅」と思ってもらえるよう、「介護する」のではなくお互い支えあえる「家族」のような関係であれるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の結びつきを大切にしながら、その時のご家族の状況等考慮し、一緒に何が出来るかを確認しながら支援できるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前まで参加していた敬老会等継続して参加できる支援体制やご本人から発信できる手紙・電話等活用し、馴染みの方々との関係が途切れないよう努めています。	家族や友人に手紙を書き投函する支援や、電話で話をする機会を作る支援をしている。友人の面会時には、知り合った経緯などを聴くなどし、関係継続に役立てている。得られた情報は記録や申し送りをを行い、共有している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現在も日常生活内で利用者同士お互いが助け合う環境ができており、今後もこの環境を継続できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も必要に応じてご本人・ご家族・関係機関を連携し相談等できる環境を提供しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活環境や生活歴・性格等考慮し、「どうしたいか」の本心が引き出せるような日々の会話(本人・家族)を大切にしています。また、常に利用者本位であるよう心掛け支援に努めています。	日常的に入居者ごとの担当者を中心に意向を把握するように努めている。伝えるのが難しい方には、選択肢を提示して選んでもらうなど、時間をかけて思いを知るように心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族以外にも、面会交流のある方や以前関わりのあった関係機関ともできる限り協力し、把握できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の状況(心身等)で過ごし方にも変化があるため、「いつも通り」等の思い込みで支援するのではなく、表情・行動等確認しながら本人のペースで過ごして頂けるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成に至っては、ご本人・ご家族の意向を中心に主治医・介護職員と意見交換等を行い、「現状に合った支援」ができるよう努めています。	ホームの職員だけでなく、医療関係者からも情報を得、計画作成に反映させている。モニタリングは入居者ごとの担当職員とケアマネジャーが共に行い、定例会の中で他の職員の意見を取り入れることで、日々の支援に繋げるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙と特記記録用紙・申し送りノートを活用し、現状を職員間で共有できるようにし、実践結果等についてもその場で意見交換等を行い、見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況も日々変化しており、その時々にあった支援ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人・家族の意向を確認しながら、近所への買い物・地区行事への参加等行い、地域の方との交流を図りながら楽しく暮らせるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にかかっていた主治医に継続してかかるよう、受診時には情報提供書等のやり取りを行っている。また、協力医とも夜間・休日等いつでも相談できる体制を築いています。	現在の入居者の受診はホームの職員が付き添うことが多い。情報提供書で診察に必要な情報を書面で伝え、適切な医療が受けられるように支援している。協力医には内科と歯科があり、必要に応じて受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており、月に1回の定期訪問とは別に、24時間体制で相談等できる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医師・看護師・MSWと連携し、本人・家族の不安が減少できるよう連携しています。また、入院時は入院直前までの情報所を作成し提供。入院後も2～3日に1度は訪問し、状況確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医・訪問看護ステーションとの24時間の契約を結び、支援できる体制を整えている。また、入所時に終末期ケアの説明を行い、必要時に再度意向を確認し、家族とともに支援していく。	訪問看護とは協力体制について話し合いを行い、連携の体制を確立している。ホームとして、重度化や終末期に向けての指針を設けているが、抽象的な表現が多く、明確でない部分がある。また、職員間での意思統一が十分に図れていないと、管理者も課題を感じている。	ホームとして、できることや体制について整理し、ケアに至るまでの一連の流れや実際の対応について、職員間で検討してほしい。また、指針の見直しやマニュアルの整備を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回、消防に依頼し救急法講習会を行っている。また、緊急時や事故発生時の手引きや本をリビングに設置し、普段から目を通すよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防本部からとエレクトリック日栄への協力を依頼し、避難訓練を行っている。日頃より、隣近所の方との交流により、緊急時の応援依頼も行っている。	消防署と設備会社の指導を仰ぎ、避難経路の見直しや手順の確認を行っている。夜間想定訓練も行い、近隣との協力体制も築いている。備蓄品は3日分の飲食物を備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の性格や誇りにあった声かけや支援ができるよう常日頃努めている。	入居者それぞれが落ち着いて過ごせるように、共有スペースでの過ごし方や言葉かけを工夫している。入居者の呼び名は、本人の希望と家族の意見を踏まえ、人格を尊重するように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が「今どうしたいか」を言葉にできるよう、場所や声かけの仕方に配慮し、毎日の身近な部分(飲みたいものや見たいもの・どこで過ごしたいか等)から表現できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間・食事時間等、本人のペースを尊重し個々に対応している。また、生活ペースも本人のペースに合わせて確認しながら支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着たい洋服等その時の気分に合わせて選んで頂いたり、月1回の美容室訪問でも、本人のしたい髪形等聞きながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生月には本人の好きなものを提供したり外食等行い、日常の食事では、ゴマをすったり包丁で切ったりと、個々のできることを生かしながら一緒に行っている。	入居者に可能な範囲で協力を貰い、調理や片付けを行っている。干し柿作りや食材の購入など共に行う機会を活用している。職員も同じ空間で同じものを食べて親交を深めている。食材で塩麴を使い、風邪予防に役立てている。時には外食も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量・水分摂取量を確認しながら、その時の状況にあった食事形態で高カロリー食等提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアへの声かけ・誘導灯行っている。また、個々の状況に合わせて介助等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に排泄記録を行い、排泄パターンを読み取りトイレ誘導している。また、利用者によって日中は布パンツ等使用し、自立に向けた支援を行うよう努めている。	介護記録の中に食事、水分量、排泄のパターンを記入し、入居者一人ひとりの状況を確認している。少しでも自立し、尊厳を守ることができる排泄となるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1回、体操や運動・腹部マッサージ等を行い、また食材にも食物繊維や免疫力につながる塩こうじ等使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているものの、本人の状態や気分に合わせて入浴が行えるよう柔軟に支援している(入浴日以外の入浴や時間帯など)	入浴日は月水金であるが、入居者の希望に応じて柔軟に対応している。個々の入居者の希望に応じて、対応を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状態や気分に合わせて球速ができるよう努めており、また、就寝時間も個々の意思を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に最新の薬の説明書(薬局より提供されるもの)を添付し、職員がいつでも確認できるようにしている。また、薬の変更等あった場合は、口頭での申し送りと記録用紙に詳細を記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なこと・好きなことを日頃より観察し、日常の中で発揮できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買い出しや施設外に出る時など、個々の希望を確認しながら一緒に外出している。また外出計画を本人と一緒に立てながら、行きたいところや食べたいものが食べられる場所への外出支援も行っています。	個人の希望に応じて、買い物や外食などを計画している。より身近な外出として、定期的な散歩を行っている。庭も広く、戸外での活動に活用されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望を確認し、家族と話し合いながらお金を所持している。ほしいものがあるときなど、本人の希望にそって買い物同行や依頼等受け支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に住む家族や友人等に手紙や電話ができるよう、希望を確認しながら行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の臭いや清潔さには十分に配慮し快適に過ごして頂けるよう努めている。また、季節に合った装飾や作品展示を心掛け、利用者様に季節感を味わって頂けるよう努めています。	行事の写真や保育園の園児の贈り物などを掲示し、訪問した家族が日常の様子を知ることができるようにしている。季節に応じて加湿器を設置し、除菌作用のある水分を使用したり、換気の時間を設けるなど、健康にも配慮している。日当たりもよく、室温も快適に過ごせるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が他者との会話を楽しめるように、また共有スペースでも独りになれるようなソファ・テーブル・椅子の配置をその時の状況によって行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時より、本人の使い慣れた家具や飾り物等家族と相談しながら配置し、その時の状況によって柔軟に対応しています。	希望に応じて、フローリングの居室に畳を敷き、和室として使用することもできる。ベットは備え付けられているが、自由に持ち込むこともできる。本人と家族の思いが反映された居室作りができるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所等の共有スペースにおいてあるものには個々の名前を記載し、ご自分で自分の物と判断できるよう、できるだけ自分のことは自分でできる環境を提供できるよう努めています。		